

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 23 年 2 月 17 日 (2011.2.17)

【公開番号】特開 2009-273822 (P2009-273822A)  
 【公開日】平成 21 年 11 月 26 日 (2009.11.26)  
 【年通号数】公開・登録公報 2009-047  
 【出願番号】特願 2008-130421 (P2008-130421)  
 【国際特許分類】

A 4 7 L 9/06 (2006.01)

【F I】

A 4 7 L 9/06 B

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 12 月 27 日 (2010.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電気掃除機に接続される接続管を備えた外郭の前方下方に、外気を吸引するための開口部を備え、前記開口部の近傍にはスリット状の開口から出沒する櫛歯を備え、前記開口部および前記櫛歯から離間した位置に外気を吸引するための孔を備えたグルーミング用ブラシ。

【請求項 2】

櫛歯およびスリット状の開口は櫛歯収納体に設けられ、前記櫛歯収納体は開口部を備えた櫛歯収納体室に内包され、前記櫛歯収納体室が接続管と連通する請求項 1 に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 3】

櫛歯収納体を回転自在とし、前記櫛歯収納体を回転させるためのダイヤルを備え、前記櫛歯収納体に歯の形状の異なる櫛歯を複数設け、前記ダイヤルを回転させて、使用する前記櫛歯の種類を変えられるようにした請求項 2 に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 4】

櫛歯収納体室の側壁に前後方向に移動可能なレバーを配し、前記レバーの前後方向の移動動作に連動して、櫛歯が開口より出沒するようにした請求項 2 又は 3 に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 5】

少なくとも櫛歯収納体の下部で、開口の前側に位置する部分と、櫛歯収納体室を形成する壁との間でエアータイトするようにした請求項 2 ～ 4 のいずれか 1 項に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 6】

櫛歯収納体の開口の後側に、前記開口と平行に段差を設けた請求項 2 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 7】

櫛歯収納体の回転を、櫛歯を下方に突出させる位置と、それ以外の位置とで仮固定するクリック機構を設けた請求項 2 ～ 6 のいずれか 1 項に記載のグルーミング用ブラシ。

【請求項 8】

開口部より空気下流側の外郭の内面に複数の凹部、又は、凸部を設けた請求項 1 ～ 7 のい

ずれか 1 項に記載のグルーミング用ブラシ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】グルーミング用ブラシ

【技術分野】

【0001】

本発明は、特にペットの毛を梳くグルーミング用ブラシに関するもので、特に、電気掃除機に接続して、ペットの毛を梳きながら同時に、梳かれた毛を吸引できるようにしたグルーミング用ブラシに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来この種のグルーミング用ブラシとして、中空筒状で一端に電気掃除機のホースに接続される接続口を有し、他端に吸引口が形成された毛梳き本体を備え、前記吸引口側に、外周長手方向に目の荒い櫛歯と目の細かい櫛歯を有する櫛歯支持体を回転可能に設けたものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

このグルーミング用ブラシを用いるときは、使用者は、櫛歯支持体に連結された回動操作部を操作して、ペットの毛に合った櫛歯を選択し、それを吸引口から突出させ、接続した電気掃除機を運転しながら、毛梳き本体の胴部を握って、ペットの毛を梳くことにより、櫛歯で梳かれた毛が瞬時に吸引されようになっている。

【0004】

しかしながら、上記従来この種のグルーミング用ブラシの構成では、ペットから抜ける毛が多い場合は、櫛歯で梳かれた毛が櫛歯間につまって、吸引されないまま残ってしまい、後の処理が大変になるという問題があった。

【0005】

上記問題を解決するために、ペットの毛を梳く櫛歯の一本、一本を細孔から突出させ、それでペットの毛を梳いた後に、櫛歯の一本、一本を細孔内に収納させて、櫛歯間に残った毛が容易に取れるようにしたものがある（例えば、特許文献 2 参照）。

【0006】

図 9 は、上記特許文献 2 に記載された従来この種のグルーミング用ブラシの斜視図、図 10 は、同グルーミング用ブラシの断面図、図 11 は、同グルーミング用ブラシの斜視図（ブラシケースが上に上がった状態）である。

【0007】

図 9 ～ 11 において、従来この種のグルーミング用ブラシの本体 1 は、後側に電気掃除機のホース（図示せず）が接続される接続パイプ 2 が形成され、内部に、ブラシ基部 3 が設けられている。ブラシ基部 3 の下部には、複数の金属製のピンからなる櫛部 4 が形成されている。5 は、本体 1 に上下動自在に設けられると共に、図示しない付勢手段で下方に付勢された内筒で、略中間部にブラシケース 6 が一体に形成されている。内筒 5 の内壁 5a とブラシケース 6 との間には、接続パイプ 2 と連通する空気通路 7 が形成されている。ブラシケース 6 の下面には、櫛部 4 を構成する各ピン 4a が貫通する細孔 8 が形成されている。

【0008】

グルーミング用ブラシがフリーの状態、すなわち、グルーミング用ブラシを使用していない状態では、図 9、10 に示すように、内筒 5 が付勢手段により下方に付勢され、櫛部 4 の各ピン 4a の先端が、ブラシケース 6 の細孔 8 内に収納されている。次に、グルーミング用ブラシでペットの毛を梳くために、グルーミング用ブラシの下端、すなわち内筒 5 の下端を、付勢手段の付勢力に抗してペットに押し当てると、図 11 に示すように、内筒

5 が上に上がって、櫛歯 4 の各ピン 4 a がブラシケース 6 の細孔 8 から突出し、ペットの毛を梳くことができる。

【 0 0 0 9 】

以上のように構成された従来のグルーミング用ブラシの動作、作用は以下の通りである。

【 0 0 1 0 】

電気掃除機のホースの先端をグルーミング用ブラシの接続パイプ 2 に接続し、電気掃除機を運転しながら、把手部を兼ねる接続パイプ 2 を持って、内筒 5 の下端をペットの皮膚に押し当てると、内筒 5 が上に押し上げられ、櫛歯 4 のピン 4 a がブラシケース 6 の細孔 8 から下方に突出する。この状態で、グルーミング用ブラシを、前から後に引くように動かすことにより、ペットの毛を梳くことが出来る。櫛歯 4 で梳かれた毛は、内筒 5 の内壁 5 a とブラシケース 6 との間の空気通路 7、接続パイプ 2、ホースを順に経て、電気掃除機によって吸引される。

【 0 0 1 1 】

梳かれた毛が多い場合は、電気掃除機の吸引力で吸引しきれず、櫛歯 4 のピン 4 a 間に引っ掛かったまま残ることがある。そのときは、グルーミング用ブラシを持ち上げることで、付勢手段の付勢力により、内筒 5 と共にブラシケース 6 が、下方に移動し、それに伴って、櫛歯 4 のピン 4 a が、ブラシケース 6 の細孔 8 内に没する。このとき、ピン 4 a 間に引っ掛けていた毛が、そがれるようにしてピン 4 a から外れ、電気掃除機の吸引力により瞬時に吸引されていく。上記動作を繰り返すことにより、ペットの毛を効率よく梳くことができる。

【特許文献 1】特開平 1 1 - 1 7 8 6 4 3 号公報

【特許文献 2】実開平 7 - 0 3 9 5 7 6 号公報（実願平 5 - 0 7 6 7 5 2 号のマイクロフィルム）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 1 2 】

しかしながら、上記特許文献 2 に記載された従来のグルーミング用ブラシの構成では、ブラシケース 6 の細孔 8 を通して櫛歯 4 のピン 4 a を出没させるようにしているため、ピン 4 a を、細く且つ棒状にする必要があった。この為、ピン 4 a が容易に変形し、ペットの皮膚にピン 4 a が食い込んだり、ピン 4 a が、スムーズに細孔 8 を通り抜けられなくなって、ピン 4 a が出たままになったりするなど、非常に使用勝手が悪いという課題があった。

【 0 0 1 3 】

この課題を解決するために、ピン 4 a を太いものに変える方法も考えられるが、これでは、ペットの毛をキレイに梳けなくなるので、採用できない。

【 0 0 1 4 】

又、ピン 4 a に絡みついた毛を確実に取り去るために、ピン 4 a と細孔 8 との隙間を小さくしているが、そのため、ピン 4 a が傾いたり、ピン 4 a の外周にペットの毛の汚れなどが付着すると、ピン 4 a が細孔 8 内をスムーズに動かなくなるなどの課題もあった。

【 0 0 1 5 】

本発明は、上記従来の課題を解決するもので、簡素な構成で、梳き性能を悪化させることなく、櫛歯の変形が少ない使用勝手の良いグルーミング用ブラシを提供する事を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 6 】

前記従来の課題を解決するために、本発明のグルーミング用ブラシは、電気掃除機に接続される接続管を備えた外郭の前方下方に、外気を吸引するための開口部を備え、前記開口部の近傍にはスリット状の開口から出没する櫛歯を備え、前記開口部および前記櫛歯から離間した位置に外気を吸引するための孔を備えたもので、前記櫛歯が出没するための開

口をスリット状に形成しているので、歯が変形しにくく、また、櫛歯全体がスリット状の開口を通して出沒するので、歯のそれぞれが細穴を通して出沒する従来のものに比べ、出沒時の抵抗が少なくなり、使用勝手の良いものとなる。更にペットの毛を梳いているときに、周囲に埃などが舞い上がっても、孔から吸引されるので、非常に衛生的である。

【発明の効果】

【0017】

本発明のグルーミング用ブラシは、簡素な構成で、梳き性能を悪化させること無く、櫛歯の変形が少ない使用勝手の良いものである。また衛生的である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

第1の発明は、電気掃除機に接続される接続管を備えた外郭の前方下方に、外気を吸引するための開口部を備え、前記開口部の近傍にはスリット状の開口から出沒する櫛歯を備え、前記開口部および前記櫛歯から離間した位置に外気を吸引するための孔を備えたグルーミング用ブラシで、歯が変形しにくく、また出沒時の抵抗が少なくなり、使用勝手の良いものとなる。また、ペットの毛を梳いているときに、周囲に埃などが舞い上がっても、孔から吸引されるので、非常に衛生的である。また、グルーミング用ブラシで、フローリングの掃除を行う際、床面で開口部が塞がれても、外気が孔から流入するので、グルーミング用ブラシが、フローリングの表面に吸着して、スムーズに掃除が出来なくなる、ということが無い。

【0019】

第2の発明は、櫛歯およびスリット状の開口は櫛歯収納体に設けられ、前記櫛歯収納体は開口部を備えた櫛歯収納体室に内包され、前記櫛歯収納体室が接続管と連通する構成としたので、前記櫛歯が出沒するための開口をスリット状に形成しているので、櫛歯を形成する各歯を山形状にして剛性を高めることが出来、歯が変形しにくく、また、櫛歯全体がスリット状の開口を通して出沒するので、歯のそれぞれが細穴を通して出沒する従来のものに比べ、出沒時の抵抗が少なくなり、使用勝手の良いものとなる。

【0020】

第3の発明は、櫛歯収納体を回転自在とし、前記櫛歯収納体を回転させるためのダイヤルを備え、前記櫛歯収納体に歯の形状の異なる櫛歯を複数設け、前記ダイヤルを回転させて、使用する前記櫛歯の種類を変えられるようにしたもので、ダイヤルを回転させるだけで、使用する櫛歯の種類が簡単に変えられるので、使用勝手が良い。

【0021】

第4の発明は、櫛歯収納体室の側壁に前後方向に移動可能なレバーを配し、前記レバーの前後方向の移動動作に連動して、櫛歯が開口より出沒するようにしたもので、櫛歯を出沒させる操作が容易で、しかもその出沒させるための機構も簡素化でき、グルーミング用ブラシを安価に構成することが出来る。

【0022】

第5の発明は、少なくとも櫛歯収納体の下部で、開口の前側に位置する部分と、櫛歯収納体室を形成する壁との間でエアータイトするようにしたもので、開口部から流入する空気の一部が、櫛歯収納体の前部を通過することが無いので、梳かれた毛が櫛歯収納体の外周に巻き付いたりする事が無く、毛の吸引がスムーズに、かつ確実に行われる。

【0023】

第6の発明は、櫛歯収納体の開口の後側に、前記開口と平行に段差を設けたもので、段差により汚れた毛が櫛歯収納体の表面に密着するのを防止し、確実に毛を吸引することができる。

【0024】

第7の発明は、櫛歯収納体の回転を、櫛歯を下方に突出させる位置と、それ以外の位置とで仮固定するクリック機構を設けたもので、櫛歯を下方に突出させる位置で、櫛歯収納体の回転を仮固定すれば、ペットの毛を梳いているときに、櫛歯収納体が回って毛が旨く梳けなくなる、ということが無く、又、櫛歯を下方に突出させる位置以外の位置で櫛歯収

納体の回転を仮固定するようにすれば、グルーミング用ブラシでフローリングを清掃しているときに、櫛歯収納体が回転し、櫛歯が開口部から突出してフローリングに傷をつけるようなことも無い。

【0025】

第8の発明は、開口部より空気下流側の外郭の内面に複数の凹部、又は、凸部を設けたもので、開口部から毛が勢いよく吸引されると、毛は一旦、開口部の下流側にある櫛歯収納体室内の天井部等に当たって、それから接続パイプに流れていくが、そこに複数の凹部、又は、凸部を設けているので、汚れた毛が、その部分に密着して吸引されずに残ることが無く、衛生的で、しかもメンテナンスも容易になる。

【0026】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、この実施の形態によって本発明が限定されるものではない。

【0027】

(実施の形態1)

図1は、本発明の第1の実施の形態におけるグルーミング用ブラシの外観斜視図、図2は、同グルーミング用ブラシの平面図、図3は、同グルーミング用ブラシの分解斜視図、図4は、図2のA-A断面図、図5は、櫛歯収納体の分解斜視図、図6は、図2のB-B断面図、図7は、図2のC-C断面図である。

【0028】

図1～7において、本実施の形態におけるグルーミング用ブラシ10の外郭11は、外郭左11aと、外郭左11aと突き合わせるようにして外郭左11aに、ネジ(図示せず)などで固定される外郭右11bから構成され、外郭左11aと外郭右11bを組み立てることにより、前部に、後述の櫛歯収納体12を回転自在に内包すると共に、下方に開口部13を有する櫛歯収納体室14が形成され、後部に、グルーミング用ブラシ10を使用するときの把手部となると共に、電気掃除機のホース(図示せず)に接続される接続管15が形成され、櫛歯収納体室14の後壁には接続管15と連通する吸引口14aが形成されている。

【0029】

外郭左11a及び外郭右11bの櫛歯収納体室14を形成する部分の上部には、外気を取り入れるための孔11cが複数設けられている。

【0030】

17は、前後方向に摺動可能に設けられると共に、櫛歯収納体12に内蔵された後述の櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bを上下に移動させるためのレバーで、外面に操作用のつまみ17aが設けられている。18は、レバー17を覆うように外郭左11aに取り付けられたカバー左で、レバー17のつまみ17aが臨む開口18aが形成されている。

【0031】

19は、櫛歯収納体12を後述する所定の回転位置で仮固定するためのクリック機構、20は、クリック機構20を覆うように外郭右11bに固着されるカバー右で、27は、クリック機構20と連結されたダイヤルである。

【0032】

櫛歯収納体12は、図5に示すように、断面がそれぞれ略円弧状の一对のケース部材21と、一对のケース部材21内に上下方向に移動自在に収納された櫛歯保持部材22と、前記一对のケース部材21を互いに付き合わせるようにして左側を固定する固定板左23と、右側を固定する固定板右24と、櫛歯保持部材22を貫通する軸体25から構成されている。

【0033】

本実施の形態では、櫛歯保持部材22の一側には、ブレード状で目の細かい櫛歯(細)26aを、反対側に、同じくブレード状で、目の荒い櫛歯(荒)26bがそれぞれ装着されている。

【0034】

また、一对のケース部材 2 1 を互いに付き合わせるようにして組み立てたときに、外周の一部に、櫛歯（細）2 6 a、櫛歯（荒）2 6 b が出沒するための開口 1 6 がスリット状に形成されるようになっている。

【0035】

固定板左 2 3 には、軸体 2 5 の他端が貫通すると共に、軸体 2 5 の上下動を許容する長孔 2 3 a が設けられている。

【0036】

外郭左 1 1 a には、櫛歯収納体 1 2 の固定板左 2 3 の長孔 2 3 a から突出した軸体 2 5 の一端が貫通する長孔 1 1 d が形成されている。

【0037】

レバー 1 7 の内側の面には、外郭左 1 1 a に設けた長孔 1 1 d から突出した軸体 2 5 の端部をガイドするガイド溝 1 7 b が斜めに形成されている。

【0038】

固定板右 2 4 の内側には、軸体 2 5 の一端をガイドする溝（図示せず）が設けられ、外側には、角孔 2 4 a が設けられ、外郭右 1 1 b には、櫛歯収納体 1 2 の固定板右 2 4 に設けた角孔 2 4 a が臨む開口 1 1 e が形成されている。

【0039】

クリック機構 1 9 は、外周に切欠 2 8 a（本実施の形態では、4 箇所に均等に配置している）を有するカム体 2 8 と、一端が外郭右 1 1 b に回動自在に軸支され、他端に設けた爪部 2 9 a が切欠 2 8 a に摺動自在に係合する爪体 2 9 と、爪体 2 9 の端部をカム体 2 8 の切欠 2 8 a に係合する方向に付勢する付勢手段 3 0 から構成されており、櫛歯収納体 1 2 の回転を仮固定すると共に、一方向のみに回転するようにしている。

【0040】

カム体 2 8 の内側には、櫛歯収納体 1 2 の角穴 2 4 a に嵌合する嵌合部（図示せず）が形成され、外側には、ダイヤル 2 7 と係合する軸部 2 8 b が形成されている。

【0041】

本実施の形態では、櫛歯収納体 1 2 が図 4 に示すように、少なくとも櫛歯（細）2 6 a 又は、櫛歯（荒）2 6 b が上下方向に移動できるようにした状態では、櫛歯収納体 1 2 の下部で、且つ開口 1 6 の前側に位置する部分と、櫛歯収納体室 1 4 を形成する壁との間（図 4 中で A の部分）でエアータイトするように構成されている。

【0042】

以上のように構成された本実施の形態におけるグルーミング用ブラシの動作、作用は以下の通りである。

【0043】

まず最初に、櫛歯（細）2 6 a 或いは櫛歯（荒）2 6 b のいずれか、ペットの毛に合った方を選択する。以下は、櫛歯（荒）2 6 b を選択した例に基づいて説明する。櫛歯（荒）2 6 b が下向きになるようにダイヤル 2 7 を、反時計方向に手で回していくと、図 6（a）に示すように、櫛歯（荒）2 6 b が真下を向いたところで、爪部 2 9 a がカム体 2 8 の一つの切欠 2 8 a に係合して、櫛歯収納体 1 2 の回転が仮固定されるので、使用者は、その時に発生するクリック感で、櫛歯（荒）2 6 b が真下を向いたことを認識する。

【0044】

図 7（a）は、レバー 1 7 が最も前方に位置すると共に、櫛歯収納体 1 2 の軸体 2 5 がガイド溝 1 7 b の上端に位置している状態を示しており、この状態では、櫛歯（荒）2 6 b が、櫛歯収納体 1 2 内に収納されている。ここで、レバー 1 7 のつまみ 1 7 a を後側に移動させると、それに伴って、斜めのガイド溝 1 7 b により、軸体 2 5 が下方に押し下げられ、同図に示すように、櫛歯（荒）2 6 b が櫛歯収納体 1 2 の開口 1 6 より下向きに突出する。このとき、櫛歯（荒）2 6 b は、開口部 1 3 の前側に位置すると共に、その開口部 1 3 より下方に突出するようになっている。

【0045】

そして、グルーミング用ブラシ 1 0 の接続管 1 5 を電気掃除機（図示せず）のホース（

図示せず)に接続し、電気掃除機を運転しながら、グルーミング用ブラシ10を、前から後に引くようにしてペットの毛を梳く。

【0046】

毛Cは、図4に示すように、一旦櫛歯(荒)26bの後ろ側に引っ掛かるが、矢印のように、開口部13より斜め後方に流入する空気に乗って、瞬時に吸引され、吸引口14a、接続管15、ホースを経て電気掃除機に吸引されていく。

【0047】

ペットの毛を梳き続けると、時々毛が、吸引されずに櫛歯(荒)26bに絡みついたまま残ることがある。このときは、レバー17のつまみ17aを前方に移動させると、図4(b)に示すように、櫛歯(荒)26bが上昇し、櫛歯(荒)26bの先端が櫛歯収納体12の開口16内に没する。このとき、櫛歯(荒)26bに絡み付いていた毛Cが、開口16の縁でこそがれるので、櫛歯(荒)26bに絡み付いていた毛Cが櫛歯(荒)26bより外れ、確実に吸引させることが出来る。

【0048】

櫛歯(細)26aを使用するときは、ダイヤル27を反時計方向に更に回転させることにより、上記と同様の作用により、櫛歯(細)26aを、開口部13より突出させることが出来る。

【0049】

以上のように本実施の形態によれば、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bが出没するための開口16をスリット状に形成しているので、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bのそれぞれを形成する各歯を山形状にして剛性を高めることが出来、歯が変形しにくく、また、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26b全体がスリット状の開口16を通して出没するので、歯のそれぞれが細穴を通して出没する従来のものに比べ、出没時の抵抗が少なくなり、使用勝手の良いものとなる。また、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bが、開口部13の前側で突出するようにしているので、櫛歯(細)26aや櫛歯(荒)26bで梳かれたペットの毛を、開口部13より斜め後方に流入する吸引風により、効率よく、且つ確実に吸引させることが出来る。

【0050】

また、ダイヤル27を回転させるだけで、櫛歯(細)26aや櫛歯(荒)26bの選択、切り換えが簡単にできるので使用勝手が良い。尚、上記実施の形態では、櫛歯(細)26aと櫛歯(荒)26bの2種類を設けたが、他の用途の櫛歯を更に設けても良い。

【0051】

また、レバー17の前後方向の移動動作に連動して、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bが開口16より出没するようにしたので、櫛歯(細)26a、櫛歯(荒)26bを出没させる操作が、腕に無理な負担が加わることなく容易で、しかもその出没させるための機構も簡素化でき、グルーミング用ブラシを安価に構成することが出来る。

【0052】

また、櫛歯収納体室14の上部に外気を吸引するための孔11cを設けたので、ペットの毛を梳いているときに、周囲に埃などが舞い上がっても、孔11cから吸引されるので、非常に衛生的である。

【0053】

また、櫛歯収納体12の下部で、開口16の前側に位置する部分と、櫛歯収納体室14を形成する壁との間でエアータイトすることにより、開口部13から流入する空気の一部が、櫛歯収納体12の前部を通過することが無いので、梳かれた毛が櫛歯収納体12の外周に巻き付いたりする事が無く、毛の吸引がスムーズに、かつ確実に行われる。

【0054】

また、櫛歯(細)26a又は櫛歯(荒)26bを使用する際に、それが開口部13から突出した位置で、クリック機構19により、櫛歯収納体12の回転を仮固定すると共に、一方向(本実施の形態では、前から後方向)のみに回転するようにしているので、ペットの毛を梳いているときに、櫛歯収納体12が回って毛が旨く梳けなくなる、ということが

無い。

【 0 0 5 5 】

次に、本実施の形態におけるグルーミング用ブラシ 1 0 で、フローリングを清掃する場合について述べる。

【 0 0 5 6 】

まず、レバー 1 7 のつまみ 1 7 a を操作して、図 4 ( b ) に示すように櫛歯 ( 細 ) 2 6 a、又は櫛歯 ( 荒 ) 2 6 b のいずれか使用していた方を、櫛歯収納体 1 2 内に収納する。次に、図 4 ( c ) に示すように、ダイヤル 2 7 を反時計方向に 9 0 度回転させる。このときも、カム体 2 8 に設けた切欠 2 8 a の一つに、爪体 2 9 の爪部 2 9 a が係合して、櫛歯収納体 1 2 の回転が仮固定される。

【 0 0 5 7 】

この状態で、電気掃除機のホースにグルーミング用ブラシ 1 0 を接続することで、グルーミング用ブラシ 1 0 でフローリングを清掃することが出来る。特に、本実施の形態では、櫛歯 ( 細 ) 2 6 a 又は櫛歯 ( 荒 ) 2 6 b を横向きにした状態で、櫛歯収納体 1 2 の回転が仮固定されているので、グルーミング用ブラシでフローリングを清掃しているときに、誤ってレバー 1 7 のつまみ 1 7 a に触れても、櫛歯 ( 細 ) 2 6 a 又は櫛歯 ( 荒 ) 2 6 b が開口部 1 3 から突出して床面に傷をつけるようなことが無い。

【 0 0 5 8 】

又、グルーミング用ブラシでフローリングを清掃しているときに、フローリングで開口部 1 3 が塞がれても、外気が孔 1 1 c から流入するので、グルーミング用ブラシが、フローリングの床面に吸着して、スムーズに掃除が出来なくなる、ということも無い。

【 0 0 5 9 】

図 8 ( a ) は、グルーミング用ブラシの要部断面図であり、図に示すように、櫛歯収納体室 1 4 内の天井部に複数の凸部 3 2 を形成している。また、図 8 ( b ) は、図 8 ( a ) の D 部の拡大図であり、図に示すように、櫛歯収納体 1 2 の表面の開口 1 6 の後側に、段差 3 3 を形成するように、開口 1 6 と平行にリブ 3 4 を設けている。

【 0 0 6 0 】

以下この構成による作用・効果を説明する。

【 0 0 6 1 】

まず、開口部 1 3 から毛が勢いよく吸引されると、毛は一旦、櫛歯収納体室 1 4 内部の天井部に当たって、それから接続管 1 5 に流れていくが、本実施の形態では、その櫛歯収納体室 1 4 内部の天井部に複数の凸部 3 2 を設けることで、毛と天井部との間に隙間を生じるので密着することがなく、汚れた毛が、天井部に密着して吸引されずに残るということを防止でき、衛生的で、しかもメンテナンスも容易である。また、孔 1 1 c から吸引された浮遊塵埃についても、付着を防止する効果がある。なお、本実施の形態では、天井部に複数の凸部 3 2 を設けたが、その代わりに、複数の凹部 ( 図示せず ) 或いは、凸部 3 2 と凹部を併設しても同様の効果を得ることが出来る。

【 0 0 6 2 】

また、ペットの毛が細くまた汚れている場合は、櫛歯収納体 1 2 の表面にへばりつこうとするが、本実施の形態では、段差 3 3 を形成しているので、その部分で、毛が櫛歯収納体 1 2 の表面から浮くことになり、それによって密着性が悪くなるので、毛は、容易に吸引されるようになり、使用勝手が向上する。

【 0 0 6 3 】

尚、上記実施の形態では、リブ 3 4 を設けることで段差 3 3 を形成したが、櫛歯収納体 1 2 の表面の開口 1 6 の後側に、段差 3 3 を形成できればよく、リブではなく、溝を設けても良い。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 6 4 】

以上のように、本発明にかかるグルーミング用ブラシは、簡素な構成で、梳き性能を悪化させること無く、櫛歯の変形が少ない使用勝手の良いもので、各種グルーミング用ブラ



シに広く応用できるものである。

【図面の簡単な説明】

【0065】

【図1】本発明の第1の実施の形態におけるグルーミング用ブラシの外観斜視図

【図2】同グルーミング用ブラシの平面図

【図3】同グルーミング用ブラシの分解斜視図

【図4】(a)～(c)図2のA-A断面図

【図5】櫛歯収納体の分解斜視図

【図6】(a)、(b)図2のB-B断面図

【図7】(a)、(b)図2のC-C断面図

【図8】(a)同グルーミング用ブラシの要部断面図、(b)(a)のD部分D拡大図

【図9】従来のグルーミング用ブラシの斜視図

【図10】同グルーミング用ブラシの断面図

【図11】同グルーミング用ブラシの斜視図(ブラシケースが上に上がった状態)

【符号の説明】

【0066】

- 10 グルーミング用ブラシ
- 12 櫛歯収納体
- 13 開口部
- 14 櫛歯収納体室
- 14a 吸引口
- 15 接続管
- 16 開口
- 19 クリック機構
- 26a 櫛歯(細)(櫛歯)
- 26b 櫛歯(荒)(櫛歯)
- 27 ダイヤル
- 32 凸部
- 33 段差